目白大学
目白大学短期大学部

SDGs副専攻課程を設置！
SDGsのローカライゼーションを推進し
持続可能な社会づくりの担い手を育てる

新宿キャンパスのSDGsラッピング

さいたま岩槻キャンパスのSDGsラッピング

SDGs副専攻課程が2022年度スタート

2022年4月より、目白大学新宿キャンパス全学部の学生を対象に「SDGs副専攻」課程を開設しました。自分の「主専攻」以外の分野も幅広く学びながら、物事のつながりや関係性・多様性を認識することで、私たちを取り巻く社会や世界を構造的に捉えるシステム思考と問題発見力を養います。世の中の動きや社会的諸課題に広く関心を持ち、それを自分事として捉え、知識の習得はもとより、課題の解決に向けて行動したい、主体的・積極的に社会に関わり貢献したいといった意欲的・活動的な学生を求め、将来ビジネスやコミュニティにおいて、リーダーシップとパートナーシップをもって活躍できる、持続可能な社会を構築する担い手・人材の育成を目指します。SDGs副専攻は、共通科目のほか、さまざまな学部・学科からなる学際的カリキュラムで、SDGsについて体系的・段階的に学ぶことができます。必修科目の講義とセミナー（各2科目）を履修、選択科目として3つの科目群のそれぞれから2科目以上（合計6科目以上）を履修。全体で20単位以上の単位取得が必要です。特にセミナーはSDGs副専攻希望者だけが履修するアドバンスト・プログラムです。修了要件を満たせば、主専攻の学位記に加えて、副専攻の修了証が授与されます。

SDGs副専攻　カリキュラム表

科目区分		科目名	科目配置学科	配当年次	単位数	修了要件
必修科目	総合科目	持続可能な社会を考える	共通科目	1	2	2科目4単位必修
		グローバルな視点で学ぶ社会と人間	共通科目	2	2	
	副専攻ゼミ	SDGs基礎セミナー	共通科目	3	2	2科目4単位必修
		SDGs特別セミナー	共通科目	3	2	
選択科目	第Ⅰ群	貧困に対する支援、日本と世界の経済事情、現代の社会福祉、現代教育入門、生涯学習概論など15科目		1~3		2科目4単位選択必修
	第Ⅱ群	自然科学的な視点から地球環境問題を考える、コーポレート・ガバナンス、未来を拓くイノベーション、ダイバーシティ社会論、都市環境デザイン論など15科目		1~3		2科目4単位選択必修
	第Ⅲ群	社会生活のデザイン、環境と社会、自然地理学概説、法学入門、観光と国際協力など15科目		1~3		2科目4単位選択必修

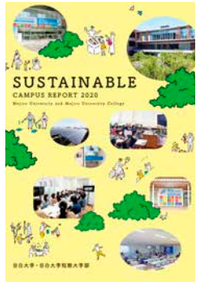
SDGsの達成に向けた全学的な取り組み

目白大学は現在、8学部16学科、大学院7研究科、短期大学部3学科、学生数6114名（2021年度）を擁する総合大学です。都内新宿区にある新宿キャンパス（文系キャンパス）と、さいたま市岩槻区にあるさいたま岩槻キャンパス（保健医療・看護系キャンパス）で、それぞれ特色ある学びを展開しています。運営する学校法人目白学園は、その母体である「研心学園」の創設が1923年であることから、2023年に100周年を迎えます。

目白学園は2011年4月に「目白学園環境宣言」を採択し、以来、学校法人目白学園「地球環境の保全及び低炭素社会への貢献」推進委員会を中心として、全学的エコキャンパスづくりと地球環境問題の解決に向けた組織的な取り組みを推進してきました。2019年4月からはこれを拡大改組して、学校法人目白学園「エコキャンパス及びSDGsプロジェクト」推進委員会を発足。2020年7月には「目白学園SDGs取組宣言」を採択し、SDGsの達成と持続可能な社会の実現に向けた取り組みを、全学をあげて推進することを宣言しました。

SDGsプロジェクトの主な取り組みとしては、①新宿キャンパスとさいたま岩槻キャンパスの校舎に「SDGsラッピング」を施工、②本学ホームページにSDGsサイト「目白大学・目白大学短期大学部×SDGs」を開設、③その中で各学部学科・研究科や全学における取り組みをSDGsの17目標に関連付けながら紹介したり、④本学の共通科目や専門教育科目の中から「SDGs関連科目」を各学部学科の選定に基づきリストアップしたり、⑤飲料自販機やエレベーターのデジタルサイネージでもSDGsの取り組み画像を映写するなど、キャンパス内のあちらこちらにSDGsのさまざまな仕掛けが施されています。

さらにエコキャンパスづくりの取り組みとして、①「森の学園」の愛称で親しまれているキャンパス内樹木の定期的な剪定（せんてい）・施肥による植栽管理、②施設・設備面では、高効率空調機やヒートポンプ式給湯器、LED照明や人感センサーの導入、屋上緑化や緑のカーテン、中水道システムや透水性インターロッキング舗装など、③環境マネジメント・環境教育の分野では、電気使用量・ガス使用量・CO_2排出量などの環境関連データの公開、環境ホームページ「Eco Campus」の管理、学生自らが企画し実施する環境プロジェクト「エコアクション」の支援、④さらにこうしたハード・ソフト両面の取り組み成果をまとめて毎年刊行してきた「エコキャンパスレポート」を、2019年度版から「サステナブルキャンパスレポート」と改称し、本学のSDGsレポートとしてエコからサステイナブルへの拡大を図っています。



SUSTAINABLE
CAMPUS REPORT 2020

University Information

目白大学・目白大学短期大学部 Mejiro University／Mejiro University College

■新宿キャンパス　〒161-8539 東京都新宿区中落合4-31-1
■さいたま岩槻キャンパス　〒339-8501 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320
URL：https://www.mejiro.ac.jp

PICK UP

～教育活動・地域連携事業の実践事例～

教育活動でSDGsに貢献する

人間学部児童教育学科の石田ゼミは、教員を目指す学生が集まっており、教職課程で育んだ力を生かして、SDGsについて教育活動を実施しています。今年度は、『地球を守れ！エシカルジャー！』というデジタル教材を作成し、つくば市の小学５年生を対象にオンライン授業を行いました。子どもたちが、主人公と一緒に正義の味方「エシカルジャー」からエシカルについて学び、最後は、悪者を倒していくストーリー仕立てです。子どもたちからは、「エコは知ってたけど、エシカルは知りませんでした。自分にできることをやってみます」といった感想をもらいました。以下、その教材です。ご覧ください。
https://youtu.be/rcE8mRvgYHc

オンラインでの授業の様子

東京の大学生と島根の中学生をメディアでつなぐ

メディア学部メディア学科の牛山佳菜代ゼミ２年生は、メディアを活用した社会貢献活動の一環として、株式会社ラック ICT利用環境啓発支援室と連携し、島根県吉賀町立六日市中学校の２年生を対象に、ICTリテラシー啓発講座の開発を行いました。最初に中学生とオンラインで交流し、その後５カ月かけて調査や講座で用いる動画の撮影・編集などを行い、「情報モラル」「情報セキュリティ」「消費者トラブル」に関する３つの講座を開発。３月には、オンラインで講座を実際に開催しました。事例や演習などを交えた参加型で行ったことで、参加した中学生から、「SNSの危険性を知ることができた」「内容がすごく面白くて中学生の私でも理解できた」などの高評価を得ることができました。

中学生向けオンライン講座の様子

SDGsをテーマにしたPBL型のゼミ活動

社会学部社会情報学科の柳田志学ゼミは、毎年、PBL型教育を導入した活動を行っています。2020年度～2021年度は自分たちと同じ若者世代にSDGsを認知してもらうために、２つのプロジェクトを実施しました。１つ目は度重なる災害に見舞われた熊本県に義援金を贈るため「くまモン」のデザインをあしらった竹ストローの製作を企画しました。さらに資金調達のためクラウドファンディングを募り、商品化を実現しました。２つ目は新宿にあるSDGsカフェ&バーの協力を得て、廃油を用いたキャンドルづくりとワークショップ、キャンドルナイトを開催しました。ゼロからすべての企画・運営を行い、企業や自治体との対外交渉を自ら行った経験は、創造力や自立心の育成へとつながっています。

復興支援のためのストローの製作

食品ロス削減を通じた地域づくりとひとづくり

社会学部地域社会学科の飛田満ゼミでは、「SDGsの視点から地域社会の未来を創造する」をポリシーに掲げ、サステイナブルな地域づくりの担い手となる人材育成（地域づくりとひとづくり）を目指すプロジェクト型のアクティブラーニングを展開しています。2021年度は、新宿区ごみ減量リサイクル課のご支援をいただき、「SDGsアクションフォーラム2021～新宿区『食品ロス削減協力店登録制度』の認知度アップに向けたアクションプロジェクト～」を開催しました。新宿区の取り組みを区民に向けて情報発信するためのアイデアとツール、PR戦略を提案しました。年度末には、東京都環境局主催のウェビナーでも、都内７大学の学生たちとともに活動報告の機会をいただきました。

市民向けSDGsアクションフォーラムの開催

PICK UP

～研究活動・社会貢献事業の実践事例～

看護用具・用品の開発支援に活かすワークショップ手法の構築　【人間学部子ども学科・西山里利教授】

よりよいケアには、真の ニーズに迫る看護用具・用品の開発が重要です。ニーズ抽出とそれを製品に反映させる具体的な方法として、私はワークショップをテーマに研究に取り組んでいます。具体的には、インクルーシブデザインワークショップや私たちが考案した患者中心型デザインワークショップ手法の構築です。患者や看護者のニーズを掘り起こし、製品に活かしていくことを目指しています。開発の早期から看護者と企業担当者がワークショップに参加することにより、意見の背景にある価値観や文化、心身の状態や状況等を参加者間で共通理解して解を導き出す方法です。これらの手法は業務改善や学習支援等にも援用可能で、ゼミ合宿や授業等にも活用しています。

展示ブースでの研究活動の紹介

SDGsに対応した学習・教師スキルと大崎学　【人間学部児童教育学科・中山博夫教授】

現在、SDGsに対応した学習スキル開発の研究に取り組んでいます。学習スキルは、コミュニケーションスキル、情報活用スキル、自己啓発スキルによって構成されます。その指導方法が、ファシリテーションとしての教師スキルです。その学習・教師スキルを活用して、SDGsの17の各目標に対応した学習単元カリキュラムを開発しています。教育を通して持続可能な社会の創り手・担い手を育てようとしているのです。本研究は、リサイクル率日本一の鹿児島県大崎町・大崎町教育委員会と提携しています。大崎町教育委員会では、地域に根差したSDGs教材として大崎学を開発しています。本研究は、大崎学を通したSDGs学習に協力することを目指しています。

目白大学本館前にて

性暴力はどのように起きるのか？　【心理学部心理カウンセリング学科・齋藤梓准教授】

性暴力は、見知らぬ人から突然行われることよりも、見知った人から、関係性を利用される形で行われることが多くみられます。しかしこれまで、そうした性暴力の多くが法律上の性犯罪と捉えられず、被害を受けた人が苦しい思いをしてきました。私は性暴力がどのように起こるのか、被害の実態を明らかにする研究を行い、法務省での性犯罪に関する法改正会議にて、研究成果を生かし、発言を行っています。法律は、社会の安全に大きく関わります。SDGsでは、すべての女性と女児が安全に暮らせる社会であることを目指しており、性暴力は重要な問題です（もちろん、性別を問わず重要な問題です）。被害の実態を社会に伝え、より安全な社会になっていくことに役立てたいと考えています。

性暴力について講演

精神疾患を持つ人々への医療と差別を考える講義　【保健医療学部作業療法学科・重村淳教授】

私は精神科医師で、災害と心の健康（メンタルヘルス）が専門です。2011年の東京電力福島第一原子力発電所事故では、社会からの差別に苦しむ発電所員の研究調査を行いました。2022年2月には国連本部のシンポジウムに基調講演者として招待され、国連平和維持活動（PKO）に携わる人々のメンタルヘルスについて講演しました。私は、保健医療学部学生を対象とした「精神医学」の講義を担当しています。精神疾患への差別のため、精神疾患を持つ人が治療を受けたり、リハビリテーションや就労など社会で活動したりする際に大きな壁があります。講義ではこの状況をテーマとし、「心のバリアフリー」について、ディスカッション形式で学生とともに考えています。

福島第一原発事故時の心のケア相談